

Ex3.5

集合 $P = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid x_1 + x_2 + x_3 = 1, \mathbf{x} \geq 0\}$ とベクトル $\mathbf{x} = (0, 0, 1)$ を考える。 \mathbf{x} の実行可能方向を示せ。

実行可能方向 $\mathbf{d} = (d_1, d_2, d_3)$ とすると、正のスカラー θ を用いて $\mathbf{x} + \theta\mathbf{d} \in P$ が成り立つ必要がある。(定義 3.1 より) そのため、 $(x_1 + \theta d_1) + (x_2 + \theta d_2) + (x_3 + \theta d_3) = 1$ つまり、 $d_1 + d_2 + d_3 = 0$ 、 $(x_1 + \theta d_1) \geq 0$ 、 $(x_2 + \theta d_2) \geq 0$ 、 $(x_3 + \theta d_3) \geq 0$ つまり、 $d_1 \geq 0, d_2 \geq 0, d_3 \geq -1$ が成り立つ集合が実行可能方向の集合。よって、実行可能方向の集合は $\{\mathbf{d} \in \mathbb{R}^3 \mid d_1 + d_2 + d_3 = 0, d_1 \geq 0, d_2 \geq 0, d_3 \geq -1\}$

Ex4.1

下のような主問題を考える。

$$\begin{array}{ll} \text{minimize} & x_1 - x_2 \\ \text{subject to} & 2x_1 + 3x_2 - x_3 + x_4 \leq 0 \\ & 3x_1 + x_2 + 4x_3 - 2x_4 \geq 3 \\ & -x_1 - x_2 + 2x_3 + x_4 = 6 \\ & x_1 \leq 0 \\ & x_2, x_3 \geq 0 \end{array} \quad (1)$$

これに対応する双対問題を示せ。

4.2 の対応表より、

$$\begin{array}{ll} \text{maximize} & 3p_2 - 6p_3 \\ \text{subject to} & p_1 \leq 0 \\ & p_2 \geq 0 \\ & p_3 \text{ free} \\ & 2p_1 + 3p_2 - p_3 \leq 1 \\ & 3p_1 + p_2 - p_3 \geq -1 \\ & -p_1 + 4p_2 + 2p_3 \leq 0 \\ & p_1 - 2p_2 + p_3 = 0 \end{array} \quad (2)$$

Ex4.6

A を $m \times n$ の行列、 b を \mathbb{R}^m のベクトルとする。ここで、すべての $x \in \mathbb{R}^n$ について $\|Ax - b\|_\infty$ を最小化する問題を考える。ここで $\|\cdot\|_\infty$ は $\|y\|_\infty = \max_i |y_i|$ で定義されるベクトルノルムである。また、最適コストの値を v とする。

- (a) $\sum_{i=1}^m |p_i| \leq 1, p'A = 0'$ を満たす任意の \mathbb{R}^m ベクトル p を考える。 $p'b \leq v$ を示せ。
 (b) (a) で考えた形式の最適な下限を得るために、線形計画問題を立てる。

$$\begin{array}{ll} \text{maximize} & p'b \\ \text{subject to} & p'A = 0' \\ & \sum_{i=1}^m |p_i| \leq 1 \end{array}$$

この問題における最適コストは v に等しいことを示せ。

(a)

$z = \|Ax - b\|_\infty$ とすると今回の問題は下のように書ける。

$$\begin{array}{ll} \text{minimise} & z \\ \text{subject to} & Ax + ze \geq b \\ & -Ax + ze \geq -b \\ & z \geq 0 \end{array} \quad (3)$$

ここで e は要素が全て 1 であるベクトルである。この問題の双対問題は下のように書ける。

$$\begin{array}{ll} \text{maximise} & b'u - b'w \\ \text{subject to} & A'u - A'w = 0 \\ & e'u + e'w \leq 1 \\ & u, w \geq 0 \end{array} \quad (4)$$

あるベクトル p について、 $p_i = s_i - t_i, |p_i| = s_i + t_i, s_i \geq 0, t_i \geq 0$ を満たすベクトル s, t を考える。このベクトル p が $\sum_{i=1}^m |p_i| \leq 1, p'A = 0'$ を満たすとする、 $e's + e't \leq 1, A's - A't = 0$ が成り立つため、 s, t は双対問題の実行可能解である。弱双対性より、 $b'p = b'(s - t) \leq v$ が示せる。

(b)

(b) の問題の最適コストを v' とする。(a) より、 $v' \leq v$ 。

$v = 0$ の時、 $p = 0$ は実行可能解であり、その時のコストは $b'p = 0$ となるため、 $v' \geq 0 = v$ が成り立つ。

$v \neq 0$ の時、全ての i について、 $(Ax + ze)_i = b_i, (-Ax + ze)_i = -b_i$ のどちらか一方は成立しない。 (u^*, w^*) が双対最適解であると仮定すると、相補スラック条件より、 $u_i^* w_i^* = 0$ である。そのため、 $u^* + w^* = |u^* - w^*|$ が成り立つ。

$q = u^* - w^*$ とすると、 q は (b) の問題の実行可能解である。強双対性定理により、 $b'q = b'(u^* - w^*) = v$ 。 v' は (b) の問題に対する最適値であるので、 $v' \geq b'q \geq v$ によって $v' = v$ が成り立つ。